

# 荒牧町だより

第139号  
荒牧町自治会  
広報委員会

【自治会定期総会のお知らせ】  
自治会では、平成26年度を迎えるにあたり、定期総会を開催いたします。

日時 平成26年3月15日(土)  
午前9時30分

会場 荒牧町公民館

「協議事項」

- 一、平成25年度事業報告及び収支決算報告
  - 二、平成25年度会計監査報告
  - 三、平成26年度副会長の選出について
  - 四、平成26年度事業計画(案)及び予算(案)について
  - 五、その他
- (※定期総会資料は、各組長より全世帯に配布いたします)

【平成26年度第1回組長・地区代表会議のお知らせ】

日時 平成26年3月23日(日)  
午前10時

会場 荒牧町公民館

「議題」

- 一、組長・地区代表の仕事について
  - 二、平成26年度の行事について
  - 三、自治会費等の集金について
  - 四、会計監査委員の選出について
  - 五、その他
- 平成26年度の自治会役員として、大切な会議になりますので、是非ともご出席方をお願いいたします。

日付	団体	行事内容	場所	時間
3/8(土)	長寿会	高齢者教室・閉講式	荒牧公民館	10~12時
3/12(水)	いきいきサロン	健康講座	荒牧公民館	10~12時
3/15(土)	自治会	定期総会	荒牧公民館	9時30~
3/23(日)	自治会	地区代表会議	荒牧公民館	10時~

自治会等行事予定

各地区でお正月行事が行われました。

## 《団地地区》お焚き上げ

～1月13日(祝)、かまきり公園～

お清めをして点火をすると、ダルマや松飾りが投げ入れられ、勢いよくお焚き上げの炎が燃え上がりました。



明けましておめでとうございます!

火に向かって手を合わせ、今年の幸を願いました。

傍らのテントでは、「おめでとうございます」の挨拶が和やかにかわされ、団地住民の和が広がっていきました。

傍らのテントでは、あたたかな甘酒や豚汁そしてミカンが振舞われました。また、子供たちは福引で、いろいろなお年玉をもらっていました。

こうして、団地の新年が、にぎやかに明けました。



豚汁うまいよ



ミカンどうぞ



大当たり～

## 《新田東地区》不動明王祭

～1月28日(火)、不動明王～

お不動様は、1736年に建立されて以来、長らく火伏せの神様として信仰されて参りました。明治22年荒牧の村に発生した大火がお不動様の所まで来ると、不思議なことに火勢が急に衰え、延焼をまぬがれた事があり、以来、厚く信仰されてきました。



参拝ありがとうございます

当日は、早朝、日輪寺ご住職による祈願後、参拝客がつめかけ、祈願や福引をしたり、おでんや綿菓子を頬ばったり、知人と談笑したりする老若男女の笑顔が境内に広がり、心温まる平穏な一日でした。

これもひとえに、ご参拝の皆様を初め、役員の皆様賛同者様のご尽力の賜であり厚くお礼申し上げます。

今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。  
(実行委員長 小池長一)



ご祈願



福引どうぞ



おでんどうぞ



# 歌と踊りのつどい

～荒牧町長寿会～

**生き生きと 若々しく**  
**着物姿あり 恋の歌あり**  
**シルクハットあり 笑顔あり**  
**もう、お年寄りなんて、言えません**

長寿会の1月教室が、25日(土)に公民館で開催されました。教室は「歌と踊りのつどい(part II)」のテーマで、会員が自主的にサークル活動している各クラブから、日頃の練習で習得した成果を発表してもらう企画で、各サークルにお願いしました。

- 当日は、
- \* 荒牧町民謡クラブ＝中津川音頭・他2演目
  - \* 寿カラオケ愛好会＝ひとり長良川・他2曲
  - \* 荒牧カラオケ愛好会＝伊勢めぐり・他2曲
  - \* チェリーポルカ荒牧＝ソーラン祭り節・他2曲

を披露してくれました。

特に民謡クラブとチェリーポルカの皆さんは、素敵な和服や、色あざやかな祭り半端で、又、カラオケの皆さんもサブテーマの「華麗なる舞・声のハーモニー」をステージから会場の皆さんに披露してくれました。



いいぞ～!

そして、最後は客席の見学者と出演者が大きな輪を作り「さわやか群馬」を2回踊り、教室は賑やかな盛り上がりでフィナーレとなりました。

**あ～楽しかった!**  
**またやりたいな!**



民謡クラブ

♪こ～いの未練か～長良川



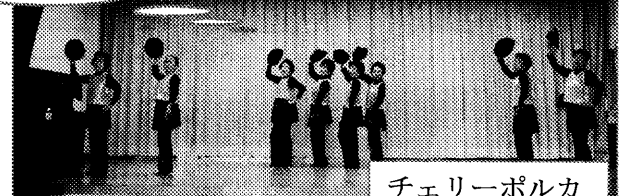
寿カラオケ

女旅立ち伊勢めぐり～♪



荒牧カラオ

こ～いの季節よ～♪



チェリーポルカ

さわやかぐ～んま～♪



さわやか群馬

## 荒牧まちたんけん 31

### 荒牧町収蔵の野帳

荒牧町自治会事務所には、ミカン箱大の6個の木箱に、長年にわたって引き継がれてきた文書(もんじよ)が保管されている。これらの文書の中でひととき目を引くのが、全部で31冊もある野帳(のちよう・やちよう)である。

この野帳について、昭和5年(1930年)柏書房から発刊された古文書用語辞典によると「野帳は江戸時代、検地帳作成過程で作られる仮帳簿であり、一筆ごとの小字名・縦横間数・反別・四至(境界)・名請人(地主)などを野外で記入した手帳をもとにして清書したものである。・即ち野帳は検地帳作成における基本台帳ともいえる」となっている。

自治会事務所に保存されている野帳は、明治時代に入って作成されたものであるが、一番古く痛みが目立つ9冊の中の一冊の上書きに、「明治九年第四月字西ノ窪 上野国勢多郡 荒牧村」と記されている。

この他の22冊を見ると古くはあれるが、かなり上質の和紙で綴じられ、内容は前記の8冊とほぼ同じであり、文字は丁寧に書かれ注釈や朱書き等は記入されていない。多分清書されたものである。

しかし、年号は無く、上書きに「第三大区一小区 勢多郡荒牧村」と記されている。この区分については

群馬県史第21巻に「熊谷県北各大小区集会仮規則」の項に、「明治七年 上野国勢多郡北第三大区第一小区を、荒牧村・関根村・川端村・日輪寺村・上小出村の五村を含む」とある。

このことから見ると、前記の「明治九年第四月・・・」と書かれたこれらの野帳は県名が変わる僅か2年ほど前に作成されたと推測される。もちろん突然作成されたものではなく、それ以前に色々と調査・計測等時間を掛けた準備の段階があった上での事と考えられる。

これらの野帳は全て小字毎に分けて綴じられ、田畑の面積・形や地価も入っているものもあり、驚くほど細かい字で書かれている。全部が正確に解ったとはいえないが、明治9年は今から百三十八年も前である。多少古くなっているが、我が国古来の書道や和紙の技術には驚嘆の他ない。現在我々の使用している紙が果たして百年後に残っているだろうか。

